

自由課題: 転移性骨腫瘍カンファレンスの開催
(平成29年7月1日～12月末日)

施設名	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
5 市立東大阪医療センター	目標:6回	治療科、緩和ケア内科、整形外科、放射線治療科、リハビリ科との合津カンファレンスをもつことにより、患者さんの全人的な視点から治療の選択を検討する	この期間に骨腫瘍カンファレンスは3回おこなった。回数としては目標に達していない。しかし、当院では今まで転移性骨腫瘍に対し放射線治療が主体となっており、整形外科的な治療は行われていなかったが、整形外科的治療により、患者のADLが向上した症例を経験した。1例目は70歳の前立腺がんの腰椎転移で、急速に両下肢麻痺が進行していたが、腰椎広範囲固定術を行うことで麻痺は回避され、松葉づえ歩行可能なまでに回復した。2例目は84歳の前立腺がんの頸椎転移が認められた症例である。初診時、両上肢の麻痺が急速に進行しており、カンファレンスを行い、頸椎追及切除術を速やかに行うことで、両上肢の麻痺が改善し、日常生活に支障が亡くなっている。3例目は大腸がんの腰椎転移により放射線治療を行ったが、痛みが軽減できず、L3の後方骨片の突出を認めたため、整形外科的に椎弓切除と腰椎後方固定術が施行された。その結果、痛みは軽減し、オピオイドを中止にすることができた。3症例とも主治医を交えたカンファレンスを行うことで、多職種で考えることで患者にとって最善の医療を多方面から考えることの重要性を認識できたという感想があった。	今後も一人ずつの患者さんの治療方針を個別に丁寧に多職種でカンファレンスを行っていくことが、回数の増加につながると考えられる。オンデマンドにカンファレンスを行えるように、情報共有できるようにする。